

各位

会社名 株式会社新日本科学
代表者名 代表取締役会長兼社長 永田 良一
(コード番号:2395 東証第一部)
問合せ先 上席執行役員 岩田 俊幸
IR広報統括部長
電 話 (TEL:03-5565-6216)

九州大学と新日本科学が共同研究契約を締結
- 地熱地域における二酸化炭素貯蔵(CCS)等に関する検討を開始 -

株式会社新日本科学(本店 鹿児島県鹿児島市、社長:永田良一、以下「当社」)は、国立大学法人九州大学(福岡県福岡市、総長:石橋達朗、以下「九州大学」)と、当社所有敷地内において大気中のCO₂を地中深くに貯留するCCS⁽ⁱ⁾の可能性等を検討することを目的として、組織対応型連携の下、共同研究契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

当社は鹿児島県指宿市に保有する自然豊かで100万坪を超える広大な敷地(メディポリス指宿)を活用して、政府から純国産ベースロード電源⁽ⁱⁱ⁾として期待されている地熱発電事業を展開しており、年間約1000万kWhの電力生産を通じ、新たに排出されるCO₂排出量の抑制に貢献しております。

今回の共同研究では、九州大学大学院工学研究院/カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の辻健教授のチームと共に、同敷地内における大気中CO₂の地中貯留等の可能性を検討してまいります。地熱地域(火成岩帯)にCO₂を貯留することで、CO₂の鉱物化が促進し、安定してCO₂を貯留できることが知られています。

当社はこれからも、「環境、生命、人材を大切にできる会社であり続ける」の企業理念、「わたしも幸せ、あなたも幸せ、みんな幸せ」というスローガンのもと、持続可能な社会の実現に貢献すべく、取り組んでまいります。

<ご参考>

- i. CCS:
「Carbon dioxide Capture and Storage」の略称で、二酸化炭素(CO₂)を回収・貯留する技術。大気に排出される、もしくは大気中のCO₂を回収し、地中深くの安定した地層に入れることで、CO₂を地中に安定的に貯留することができる。気候変動の原因とされている大気中のCO₂濃度を減少することができることから世界的にも関心が高まっている。
- ii. ベースロード電源:
発電(運転)コストが、低廉で、安定的に発電することができ、昼夜を問わず継続的に稼働できる電源。日本政府は第5次エネルギー基本計画にて地熱、一般水力(流れ込み式)、原子力、石炭をベースロード電源として位置付けている。

以上